

# 【事例】オープンコミュニティスペース「みんなの」（福岡県糸島市）【要旨】

福岡県糸島市には、公設の施設だけでなく、民間企業や地域の有志が設立・運営するオープンコミュニティスペース「みんなの」が開館している。本施設は完全に民営（合同会社いとしまちカンパニー）の上、利用者からの利用料徴収やイベント開催などの収益により独立での採算を果たしており、民設民営の“未来型の公民館”ともいえる施設となっている。

## 背景・目的

- 糸島市では、商店街に空き店舗が目立つなど、中心市街地の活性化が問題となっていた。
- いとしまちカンパニー合同会社の共同代表3名は、地域映画祭「いとシネマ」を開催するなど、地域活性化のための活動を行っていた。
- 糸島市の中心市街地過疎化に課題意識を持つ糸島市役所・西日本新聞グループ（西日本新聞・糸島新聞社）が、同社に対し、活性化について相談したことから、プロジェクトが開始した。
- 同社は市とNTT西日本と連携協定を締結。市との意見交換は実施するものの、**実際の運営は補助金等を使用せずすべて同社が実施。**

## 施設の概要



運営事業者は、**合同会社いとしまちカンパニー**。  
以下の機能を有する。

- ◆ コワーキングスペース
- ◆ イベントスペース
- ◆ 読書スペース
- ◆ 観光拠点・レンタサイクル



## スケジュール

- R1 合同会社いとしまちカンパニー設立
- R1 市・NTT西日本との連携協定の締結
- R2 「みんなの」開館

## 成果・効果

- （コスト面）
- ◆ 完全民営による独立採算化：  
利用料の徴収、イベント開催（市や商工会等の事業含む）による収益約30名からなるボランティアスタッフの協力もあり、人件費をゼロに抑えている
- （サービス面）
- ◆ 完全民営による自由なサービス展開：  
コミュニティスペース機能（公民館と同様）だけではなく、コワーキングスペースや観光機能も兼ね備えた複合施設化

# 【事例】オープンコミュニティスペース「みんなの」（福岡県糸島市）【実現に至った経緯・工夫】

## 事業経過

- H28 合同会社いとしまちカンパニー設立
- R2 糸島市、いとしまちカンパニー合同会社、NTT西日本の3者間にて「地域活性化に関する連携協定～ICTを活用し、魅力と活力あふれる糸島の実現をめざして～」を締結（①新規事業創出、②観光振興、③地域交流の活性化、の3項目）
- R3 オープンコミュニティスペース「みんなの」開館

## 整備課題・対応

### 整備前の課題

施設建設・確保に多額の費用を要する

開館後の運営にも一定の費用を要する

周辺地域の過疎化・高齢化

### 対応策

- NTT西日本の基地局施設が保有するスペースを地域のために有効活用
- NTT西日本が改修を実施した場所を賃借する形で場所を確保
- クラウドファンディングによる資金調達
- 利用料の徴収：「利用料が発生する施設」という前提でも利用者が集まる
- イベント開催による収益
- レンタサイクル事業による収益
- ボランティアスタッフの協力による人件費削減
- 商店街の空き家活用：移住者の巻き込みによる出店の促進

### 体制図

